

[普及事項]

新技術名：ブドウの枝幹害虫クビアカスカシバはフルベンジアミド水和剤で防除できる
(平成23～24年)

研究機関名 果樹試験場 特産果樹部
担当者 小松美千代・大隅専一

[要約] ブドウ樹の主幹と主枝の粗皮を剥ぎ、フルベンジアミド水和剤4,000倍を6月下旬に1回散布し、その後7月上～中旬に2回目を散布することで、クビアカスカシバに対する防除効果が得られる。

[普及対象範囲]

全県のブドウ生産地域

[ねらい]

本県のブドウ主産地である横手市において、近年クビアカスカシバによる被害が増加しており、防除対策として幼虫の捕殺が実施されているが効果は不十分である。

横手市における幼虫の食入時期は7月上旬～10月上旬で、食入数は8月に多いことから、薬剤散布等によって7～8月の幼虫食入を防止することが被害軽減のため必要である。

そこで、チョウ目幼虫に対して高い活性を持つフルベンジアミド18%水和剤（商品名フェニックスフロアブル）の本種に対する防除効果を明らかにし、本種に対する効果的な薬剤防除法を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は6月上旬から8月中旬までみられ（図1）、幼虫の食入は7月中旬から10月上旬までみられた（図2）。
2. 性フェロモントラップ雄成虫の誘殺数と幼虫の食入時期からフルベンジアミド水和剤4,000倍を6月下旬に1回散布しただけでは被害がみられた（表1）。
3. フルベンジアミド水和剤4,000倍を6月下旬に1回、さらに7月上旬あるいは7月中旬に2回目を散布した調査樹に被害は発生しなかった（表1）。
4. 以上より、ブドウ樹の主幹と主枝の粗皮を剥ぎ、フルベンジアミド水和剤4,000倍を6月下旬に1回目を散布し、その後7月上～中旬に2回目を散布することでクビアカスカシバの被害を抑制できる。

[成果の活用上の留意点]

1. フルベンジアミド水和剤4,000倍は浸透移行性が乏しいため、散布むらがないよう丁寧に散布する。
2. スピードスプレーヤによる散布では、主幹下部への薬剤到達が悪いため、主幹下部のみ手散布を実施することが望ましい。

[具体的なデータ等]

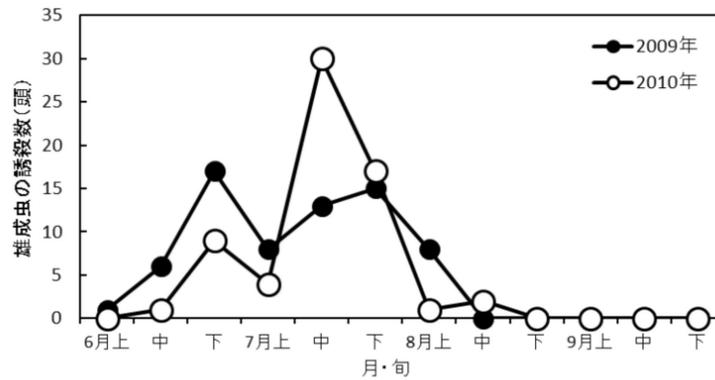


図1 性フェロモンによる雄成虫の誘殺消長(金沢中野)

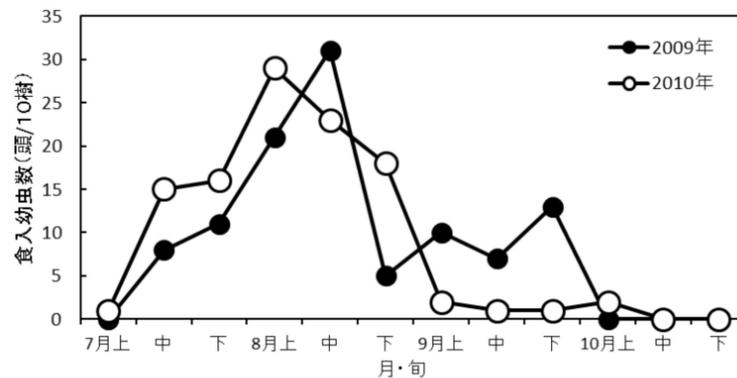


図2 枝幹における食入幼虫数の推移(金沢中野)

表1 クビアカスカシバに対するフルベンジアミド水和剤4,000倍の防除効果(2011)

試験の区分		虫糞排出か所数	食入幼虫数 (頭/1主枝)
散布回数	散布時期		
1回	6月29日	1.0±0.6	1.0±0.6
2回	6月29日 7月7日	0	0
2回	6月29日 7月14日	0	0
無散布		3.7±1.3	4.0±0.5

表中の数値は平均値±標準誤差
 横手市大沢の現地ほ場。「巨峰」7～9年生(露地栽培、自然形仕立て)のクビアカスカシバによる過去の食害痕を含む主枝を各区3主枝供試し、各区とも性フェロモントラップへの雄成虫の初誘殺前である6月7～9日に各区の粗皮剥ぎを実施した。動力噴霧器を用いて供試薬剤を10L/主枝の割合で散布した。調査は8月18日に実施した。

[発表論文等]

植物防疫67(2013) : 232-236

北日本病虫研報64(2013) : 218-221